

研究室紹介
INSTITUTION,
MEMBERS AND
WORKS

【研究室紹介】
摂南大学工学部土木工学科土木計画学研究室

枝村俊郎
銭谷善信

1. 摂南大学工学部土木工学科とは

摂南大学工学部は大阪府寝屋川市池田中町に立地している。そもそも中級技術者の要請をめざし1962年(昭和37年)4月に設置された大阪工業高等専門学校が母体になり、1975年(昭和50年)4月に摂南大学開設時に設けられた唯一の学部であった。学部構成は5学科2教室、土木工学科、建築学科、電気工学科、機械工学科、経営工学科、数学物理教室、保健体育教室であるが、1989年(平成元年)4月、大学院工学研究科が発足し、まず社会開発工学専攻、機械・システム工学専攻の修士過程が、ついで1990年(平成2年)4月電気電子工学専攻修士過程が発足した。

現在、土木工学科の教員は6名の教授、4名の助教授で構成されており、学生は各学年120人、このうち数人が大学院へ進学し、20%前後が公務員へ、残りが建設業、コンサルタント業に進んでいる状況である。

土木工学科では充実した各種実験設備によって、広範多岐な土木建築事業の計画・設計・施工に関し、広い視野を持ち積極的に対応する実行力を身につけた技術者・研究者を育成している。1991年(平成3年)3月までは、従前から5部門(構造工学、土質工学、水工学、コンクリート工学、土木計画学)で構成していたが、同年4月新たに土木解析学を第6部門として加えることになった。

2. 計画系のカリキュラムについて

カリキュラムについては1993年に全学的な見直しにあわせて改正された。

学部では土木計画学(3年次)、土木計画学演習(3年次)、道路工学(3年次)、交通工学I(3年次)、交通工学II(3年次)、鉄道工学(4年次)、都市計画学(4年次)の講義がある。来年度には新カリキュラムの完成年度にあたり、計画系の教育の充実の一貫として土木工学設計の演習の中で、都市計画、都市設計、道路設計などの課題を用意して、学生がより都市計画に親しんでくれることを期待している。また大学院では土木計画学特論、

交通工学特論としてさらに専門的な新育を実施することとしている。こうした科目を枝村俊郎教授、銭谷善信助教授が中心となって進めている。

3. 計画系研究室の研究と教育
(1) 枝村研究室

枝村は本学に着任後1年、1サイクルを終えて、当初大いに戸惑った前任校の神戸大学との学生諸君の気質の差もほぼのみ込み、このところ当学での生活を大いにインジョイしていると言っていい。IBMの大型機はそのソフトの使いよいに感心し、あとEWS、すっかりやすくなったパソコンと使い分け、前は若い人たちにまかせきりでやった仕事を一步一步自分でやる実感の確かさを楽しんでいる。研究室は大学院学生2人、学部学生11人といった世帯である。大学のある寝屋川市にはじめて足を踏み入れたとき、これが世界一金持ちの国日本の街かと考え込んだ。高度成長期のアーバンスプロールのまっただ中に急成長したこんな街をほっておいて、よその国を援助する資格があるのか。いったんわが国の経済が成熟しいまの英国のようになったら、いったい後に何が残るのだらう。こういう思いで、いまはGISその他の手法を使い、学生諸君とこの街の現況分析をし、処方箋をつくらうとがんばっている。他のもう一つのテーマは、いわゆるQ-V曲線の合理的設定で、未だにすっきりしない話をなんとか実務に役立つようなものをと道路交通センサデータの解析を地をはう姿勢でやり始めたところである。

(2) 銭谷研究室

摂南大学開設間もない1977年(昭和52年)に銭谷が京都大学土木教室から移籍して設立された。今年度の卒業研究生は11名である。

研究内容は、当初から今も続いているバス系統の設定モデルの開発、交差点の右折車線長の影響や走行速度の観測などの交通工学的観点からの検討や、自転車の段差通過時の自転車や運転者に与える振動の影響の解析、新設交通標識の認識に関する分析などを行っている。

4. おわりに

摂南大学工学部土木工学科は比較的歴史の浅い大学であるが、もう開設から20年を経、2000人以上の多数の土木技術者を社会に送り出しており、卒業生は全国各地で活躍している。土木計画系研究室は摂南大学土木工学科の6分野の一つとして今後もその役割を担っていくことになります。

(1995.6.1 受付)